

九州建設情報社

県交通安全施設業協会「こどもを守ろうプロジェクトIN飯塚」

9日、飯塚市で関係者が出席し寄贈式開く、通学路に横断防止柵等設置



寄贈式に出席した関係者の記念写真

交通安全施設等を設置し、次代を担う子ども達の交通事故防止を目的に(一社)福岡県交通安全施設業協会(田中賢哉会長 会員・賛助会員99社)が10月に実施した社会貢献活動「こどもを守ろうプロジェクトIN飯塚」の寄贈式が9日、飯塚市役所で開催された。式には協会から役員・事務局5人と飯塚市から片峯誠飯塚市長、武井政一教育長と幹部職員4人が出席、田中会長から片峯誠飯塚市長に飯塚市立伊岐須小学校と二瀬中学校前の市道に設置した横断防止柵等の交通安全施設の目録が手渡された。



田中会長から片峯市長に目録贈呈

同協会では、子どもたちの事故防止をねらいに、昨年度から県内を4地区に分け、会員持ち回りで、この「子どもを守ろうプロジェクト」事業に取り組むことを決定。今回の「こどもを守ろうプロジェクトIN飯塚」は、施工場所の選定にあたって、飯塚市や福岡県警と事前協議し、筑豊地区の中心地であり、かつ交通の要所。近くには飯塚市立二瀬中学校

と伊岐須小学校、保育園などがあり、毎日約1400人の子どもたちが通学している場所。10月20日と21日の2日間、筑豊地区の総括理事と会員らが市道の歩道部に横断防止柵約230mの設置と車道部の横断線・予告マーク工事などを施工し、次世代を担う子どもたちの交通事故防止と地域の安全意識の高揚につながる社会貢献活動を行った。

式には、協会から田中会長、近藤・星子副会長、大塚筑豊地区総括理事、田井事務局長の5人。飯塚市は片峯誠市長と武井政一教育長に都市建設部の幹部職員4人が出席。都市建設部長が新型コロナ感染拡大防止のもとで活動実施までの経緯を説明したあと、田中会長から片峯市長に交通安全施設の目録書が手渡された。

このあとの挨拶で、田中会長は「私どもは道路標識、区画線、防護柵等の道路交通安全施設の施工業者から成る一般社団法人であり、今年で設立4年目。昨年、滋賀県と東京都で子どもたちの大切な命が奪われるという痛ましい事故が発生、我々交通安全事業に携わるものとして大変ショックなニュースがありました。業界を挙げて、子どもや高齢者の交通安全対策に貢献できるよう努力したいと考え、これまでに福岡県内で4回、この事業を行ってまいりました」とし、「寄贈した施設が地域の子どもたちの安全を守り、また飯塚市の交通安全対策事業の一助となれば幸いです。子ども達は未来の日本を担う大切な宝であり、来年度以降も当協会の重要な事業として、継続実施していきたい」と抱負を述べた。

これに対し、飯塚市の片峯市長は「この地区は、筑豊地区でも最も多く児童生徒が通学するエリア。本市といたしましても伊岐須小学校の子ども達の密集を避けるために、通学路の拡張や道路整備を行い、安全対策を講じてきましたが、地域や保護者のご要望に100%応えきれる状況ではありませんでしたので、今回のご寄贈を大変うれしく思っています。私どもの至らない部分を、皆様方が社会貢献という形で取り組みを実施して頂いてることに対し、心から敬意を表したい」。武井教育長は「飯塚市の登下校中の交通事故は、平成30年度小学校7件、中学校2件、令和元年度小学校5件、中学校1件で、幸い命にかかわるような事故は起こりませんでしたが、今回のご寄贈を受け、飯塚市教育委員会として、関係機関、団体等と連携をしながら子ども達に交通安全ルールの順守、道路の横断の仕方など交通安全教育の更なる充実をはかり、児童生徒の安全確保の取り組みを推進してまいりたい」とそれぞれ感謝の言葉を述べた。